

ULTIMATE



KIWI PRIDE GUIDE

CONTENTS

子犬を迎えたら.....	3
栄養ガイド.....	7
お手入れ方法.....	10
クレートトレーニング.....	13
トイレトレーニング.....	16
空港での受け取り.....	19
初めて子犬を飼う方へ.....	21



A woman with long, dark, wavy hair is shown from the chest up, holding a fluffy white and tan Australian Labradoodle puppy. She is wearing a dark green, backless dress with lace-up details. The background is a white wall with green ivy. There are some green leaf-like graphics on the left side of the image.

KIWI PRIDE GUIDE TO SETTLING IN

WITH FEEDING AND WOUND INFORMATION

子犬を落ち着かせる

子犬は新しい家に到着すると、少し緊張します。

飛行機や車で帰宅した後、トイレが必要かどうかを確認するために、まず子犬を外に連れ出すとよいでしょう。最初のトイレは、リードでつないでおく必要はなく、外に出して様子を見ましょう。

(※日本の場合はこの通りではありません。囲いがあり安全な場所であることを確認してください)

子犬がトイレを済ませたら、目の届く範囲で室内を自由に歩き回れるようにします。

例えば、子犬を家族と一緒にリビングルームに入れ、ドアをすべて閉めるなど、最初は1つのエリアだけを探検させるようにします。

これは子犬にとって非常に大きなプロセスなので、子犬をつかんだり、抱きしめすぎたりしないようにしてください。この時期はとてもエキサイティングで、家族全員が子犬を抱きしめたくくなります。それは良いことですが、子犬には歩き回ったり探検したりしてほしいのです。

子犬が少しぐずったら、元の場所に戻してあげましょう。できれば全員が床に座って、子犬と同じ目線になるようにします。そうすれば、子犬はあなたに対してあまり怖がらず、喜んで近づいてくるでしょう。

成犬や猫など他のペットがいる場合は、最初のうちは先住犬にリードをつけ、猫も部屋から出しておくとよいでしょう。

子犬の移動のため、朝は食事を与えていませんが、移動の距離に応じて食事を与えるかどうかアドバイスします。特にお知らせがない限り、少量の食事を与えることで子犬が落ち着き、その日の夜から通常の食事の習慣を続けることができる場合があります。

おもちゃで少し遊んであげると落ち着きますし、裏庭をぶらぶらさせてあげると、子犬が外でトイレをすることに抵抗がなくなるようです。

クレートを使っている場合、子犬には日中15～20分程度クレートの中に入れてもらい、夜までに慣れさせるのが理想的です。

クレートトレーニングをしていない場合は、子犬を寝床に慣れさせることが大切です。

子犬を飼い始めるにあたって、わからないこと、心配なことがあれば、遠慮なくご相談ください。

餌について

現在、子犬はドッグフードを1日2回与えています。

子犬はかなりの量を食べることができますが、(小型・中型の場合)朝1/2カップ、夕方1/2カップ、(標準サイズの場合)朝3/4カップ、夕方3/4カップの食事です。

夕方の給餌は通常、午後4時半から5時頃です。

子犬によっては、この量を一度に食べたり、半分だけ食べて残したりするのは普通のことです。

子犬が何も食べない、元気がない、様子がおかしいなどの場合のみ、心配するようにしてください。

このくらいの年齢の子犬は、固形食に対応できるよう消化機能がまだ発達していないため、お腹を壊しやすいのです。便をしっかりさせるために、ゆでたご飯と細切れの鶏肉を2、3日使用するとよいでしょう(ささみ粥)。ドッグフードと同じ分量で、お腹にやさしく、便の状態をよくします。

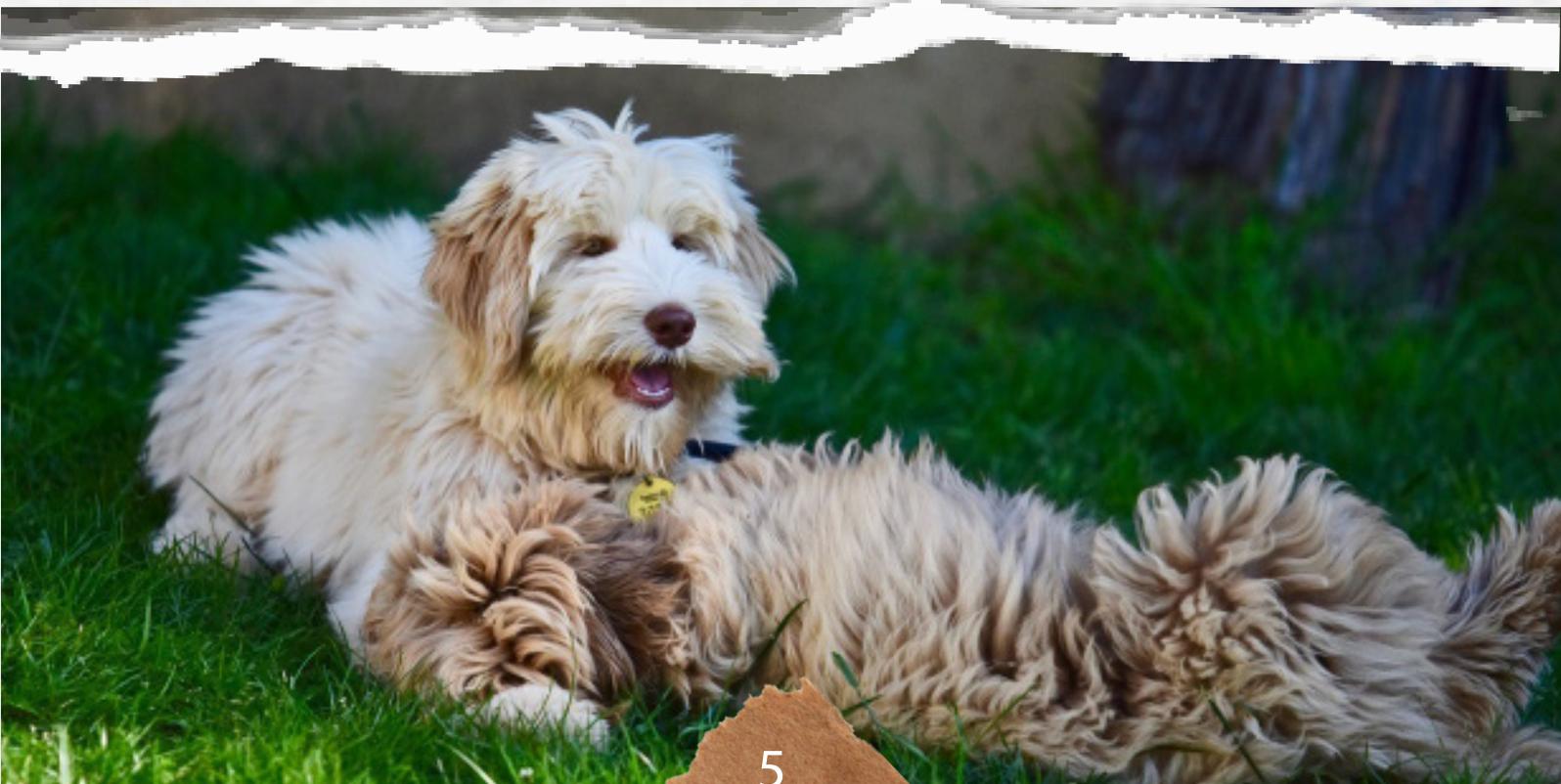
その後、通常の食事に戻してください。

子犬が元気がなく、体調が悪いと思われる場合は、医師の診断を仰いでください。子犬の正常な排便は、環境の変化や新しい環境でのストレスにより、固いものから非常にゆるいものまでさまざまです。

子犬の排便が茶色の水のような場合は、感染が疑われるため、医師の診断を受ける必要があります。

新しい家や環境に適応する最初の数週間のストレスは、細菌感染を引き起こすのに十分ですが、通常、健康な子犬ではそれほど一般的ではありません。

しかし、子犬が新しい家に慣れるまでの間、猫用フードや庭の猫のフン、汚れた飲み水などに触れると、お腹の調子が悪くなるきっかけになることがあります。



去勢について

キウイプライドの子犬はすべて、私たちの元を去る前に去勢手術をします。
(この手術日は、パピーパックに同梱されている診断書で確認してください)。
何か問題があれば、子犬を新しい家へ送ることはしませんが、ご家族がこの
部分を観察し、清潔で健康な状態を保つようにすることが大切です。
心配なのは、出血、膿、赤み、痛みの徴候です。
痛みのサインで気になることがあれば、遠慮なくご相談ください。



KIWI PRIDE GUIDE TO



NUTRITION

栄養ガイド

食生活の重要性

“You are what you eat

(人は食べるもので形成される)”という言葉は、人間と同じように犬にも当てはまるものです。

愛犬の食事は、成長・発達、皮膚・被毛、免疫システム、アレルギーに対する耐性、そして生活全般の質に大きな影響を及ぼします。

すべては子犬から始まり、人生の最高のスタートを切るための良質な食事が必要です。この時期は、骨や関節が正しく成長するためのサポート、脳の発達のためのDHA、そして消化器官の発達のための適切な栄養バランスが必要です。

私たちは必ずスーパープレミアムフードで子犬を育てますが、ご家庭でも犬の一生をスーパープレミアムフードで過ごしていただくことが重要です。

低品質の食品に変更すると、骨や関節の成長だけでなく、低アレルギー性のコートでさえ、それをサポートするために必要なアミノ酸と油の適切なバランスがないと、脂っこく、臭いが生じたり、手に負えないものになることがよくあります。

犬の食事は、訓練の可能性とエネルギーレベルに影響を与えることさえあります。

キウイプライドでは、子犬が丈夫に育つよう、一頭一頭スーパープレミアムフードを与えて育てていますが、理想的な健康状態を保つためには、生涯にわたってプレミアムフードを与え続けることが重要です。

ペットフードのマーケティングとパッケージングは非常に欺瞞的であり、犬に適した食品を選択することになると誤解を招く可能性があるため、適切な食品を見つけるのは難しい場合があります。

スーパーマーケットで売られているフードは、犬にとって必要最低限の栄養しか含まれておらず、アレルギーや涙やけ、ひっかき傷など、食に関するトラブルの主な原因となる可能性があるため、絶対に避けてください。

牛肉は多くの犬にとってアレルギーとして知られており、かゆみ、赤み、脂っぽさや臭いのある被毛、ワックス状および酵母性の耳のトラブル、涙やけなどの原因になることがあります。

スーパーマーケットで売られているフードの多くは、牛肉が主原料として表に書かれていないことが多いのですが、ほとんどの飼い主が見向きもしない原材料リストの中に普通に記載されているのです。

スーパーマーケットのフードは、ペットショップや動物病院で売られている高級フードに比べ、コストが安いように見えますが、消化率は低く、犬が満腹感を得られるようにするには、たくさんの量を食べさせなければなりません。

プレミアムフードの方が消化が良く、与える量は少なくなります。

生食は、最近人気が出てきている食事法で、うまくいく場合もありますが、そうでない場合も多く、必ずしも最も理想的な選択とは言えません。

ほとんどの場合、これは犬にとって消化するのに非常に多量のタンパク質であり、これが発生すると、未消化のタンパク質は体内で行き場を失い、皮膚からしみ出すしかなくなるのです。

酵母は、過剰なタンパク質を餌にして、脂ぎった臭い被毛や、感染しやすいワックス状の外耳炎などの耳のトラブルになってしまいます。多くの飼い主が自分の犬に対して正しいことをしていると思っても、早老や死を含む多くの問題や状態の主な原因となってしまいます可能性があるため、生食は私たちがしばしば排除するように提案します。

良い食事が与える多大な影響を見てきたので、私たちは、ラブラドール犬の理想的な全身状態を保つために、子犬をお迎えいただくご家庭には、私たちが推奨するようなプレミアムフードを与え続けることを強くお勧めします。





KIWI PRIDE GUIDE FOR GROOMING

お手入れ方法

ラブラドゥードルの被毛が抜けづらいといった特性は、被毛が伸び続けることを意味します。そのため、ブラッシングやクリッピング(バリカンで被毛を刈ること)が必要です。

ブラッシング

少なくとも週に一度は、時間をかけて、スリッカーブラシとメタルコームを使って、被毛をしっかりとブラッシングしてください。スリッカーブラシは、しっかりとした金属製のピンが付いているブラシで、被毛にしっかりと入り込み、皮膚まで絡まないようにします。このブラシは皮膚を傷つけたり、引っかいたりすることはありませんが、被毛をきちんとブラッシングするためには、十分な硬さが必要です。

敷地内や周辺に長い草や植物などがある場合、草の種が被毛に巻き込まれる可能性があるため注意が必要です。

トリミング

年に数回トリミングを行い、被毛を健康に保ち、毛並みを整えてあげましょう。

トリミングの間隔については、お近くのトリミングショップの推奨する間隔に従ってください。トリマーは、ご家族のお好みに合わせて、さまざまな長さの被毛を切りそろえることができます。ラブラドゥードルの被毛は、生後6ヶ月を過ぎるまでは切りそろえない方が良くとされています。

子犬の被毛が成長するまでの間、トリマーに顔周りのカットや洗髪、お尻や足の裏のカットなど衛生面のお手入れをしてもらいましょう。そうすることで、清潔さを保つことができ、トリミングされることに慣れることができます。

生後6ヶ月を過ぎたら、ご希望であれば全身をクリッピングしていただいても結構です。

シャンプー

洗うときは、天然素材のペット用シャンプーを使い、その後にペット用コンディショナーを使用することが必要です。コンディショナーなしで頻繁に洗うと、被毛が乾燥して傷みやすくなり、もつれやすくなります。シャンプーのあと、被毛が乾いたら、このタイミングでブラシを通すと効果的です。アレルギーに悩むご家庭では、洗う際に犬の被毛に低刺激のシャンプーを使用するのも効果的です。ラブラドゥードルは被毛に油臭さがいないため、必要だと思ったときだけ洗うことになります。(3~4週間に1度)

洗う際に、コートに小さなもつれがある場合は、水が引き締まり、悪化するため、洗う前にこれらを取り除いてください。洗う時間がない場合や、すぐに修正したい場合は、コートにスプレーして素敵な香りを残したり、コートをより光沢のある柔らかくしたりできる犬のコロンを利用できます。

子犬から成犬への移行

生後10ヶ月から12ヶ月の間に、被毛は子犬の被毛から成犬の被毛へと変化し始めます。

この時期には、子犬の被毛が抜けて成犬の被毛が生え揃い、少し厚くなる時期があるため、ブラッシングの回数を増やす必要があります。

これは、この時期を乗り切るのを助けるために、それらを少し短めにクリッピングしてもらおうと、より効果的です。



耳

ラブラドゥードルの耳は、たれ耳な上に、耳の穴の中に毛が生えています。

耳の穴が毛でいっぱいになると、空気が循環しなくなり、犬の外耳炎の主な原因となることがあるため、毛を取り除く必要があります。子犬のうちには数カ月一度、耳のお手入れの必要性をトリマーに確認してもらいましょう。

成犬になってからは、被毛の手入れと同時に行うことができます。

すべての犬は私たちと同じように耳垢でいっぱいになることがあるため、時々耳を掃除する必要があります。

耳の中に数滴垂らすだけで、耳垢を分解して取り除くことができる耳掃除グッズを購入しましょう。

耳を拭くときは、無香料のウェットティッシュやコットンを使用するとよいでしょう。

爪

子犬の頃は約4～6週間、成犬になってからは適宜、爪のカットが必要です。

コンクリートの上をたくさん歩くと、自然と爪が磨り減ってしまうので、あくまでも生活スタイルによる目安です。ペット用の爪切りがあれば、ご自宅で簡単にできます。

歯

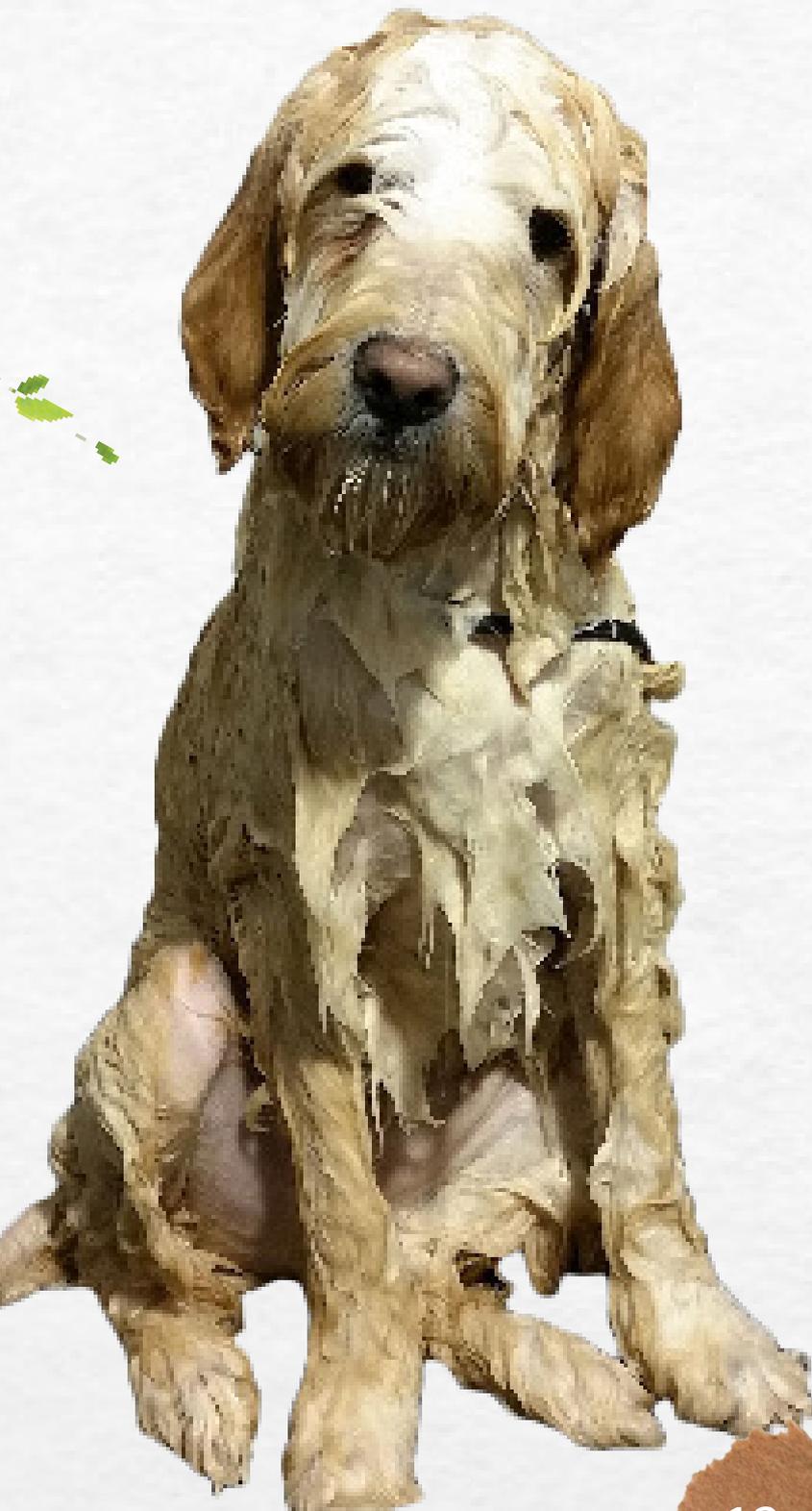
歯は清潔に保つことが大切なので、ビスケット食を続けるようにしましょう。

これを食べると、ビスケットが噛み砕かれる際に、食べ残しや歯垢をかき出す仕組みになっています。

歯磨き専用ガムは、定期的に与えることで、歯垢を拭き取りやすくし、歯垢を拭き取り、歯と息を清潔に保ちます。

振る舞い

ラブラドゥードルがブラッシングやトリミングを受けるときは、お行儀よくすることが大切です。リードに繋いで、足や顔、胸の下など、あらゆるところをブラッシングしてあげましょう。グルーミングはお行儀よくしなければならない時間だと認識させるようにしてください。



KIWI PRIDE GUIDE FOR CRATE TRAINING

× クレートトレーニング



Crate Training

クレートは、子犬にとって安全な場所／隠れ家になるのはもちろん、スペースの節約にもなります。これは、犬本来の本能である巣穴行動を利用し、家の中で自分の居場所を認識させ、自分のスペースを確保するためのポジティブなトレーニング方法です。適切に使用することで、愛犬にとって心地よい空間となり、家庭内の騒音や混乱から逃れたいとき、安心したいときに逃げ込める場所になるはずです。それは分離不安などの望ましくない行動を止め、より速く、はるかに効率的なトイレトレーニングをもたらし、穏やかで行儀の良いペットを確立するのに役立ちます。

クレートを、リビングやダイニングなど家のどこかに置くと、子犬が何が起きているのかを見たり聞いたりすることができます。これにより、子犬は自分が家族の一員であり、除外されたり閉じ込められたりしても罰せられると感じることはありません。

- 古いタオル、古い毛布、または家族の香りがするものは使用しないでください。何度洗っても、あなたの香りがします。これは、子犬が許可されているものについて混乱させ、子犬が靴、靴下、子供のおもちゃ、その他の許可されていないものをいたずらする原因となる可能性があります。

- 小さな子犬の場合、

クレートの中にヒートパッドがあると、母親や兄弟が提供する暖かさに似ているため、落ち着くのに役立ちます。

- 子犬を刺激して楽しませるために、クレートの中に少なくとも3つのおもちゃを用意してください。1つは、ぬいぐるみやかわいいおもちゃである「快適なおもちゃ」で、子犬に同腹仔の快適さと同じような安らぎを得られるようにします。

- クレートの半分に布団を敷き、もう半分にはトイレパッドを敷いて、どうしても必要なときにトイレができるようにしてあげましょう。

- クレートは、子犬の本能として、生活圏の近くでトイレをしないようにするためのものですが、子犬は必死になればどこでもトイレをするので、必要に応じて特定の場所を用意してあげるとよいでしょう。

- 子犬は夜間はクレートに入れ、日中は3時間以内にしてください。

- ただし、1日のうち何時間もクレートに入れておくと、退屈してしまうので、クレートから出す前と出した後に散歩やゲームなどの刺激を与える必要があります。

- 子犬をクレートに入れるのは、子犬を監視できないときのしつけや安心感のためですが、子犬を占有するためではありません。クレートにいる時間が長すぎたり、クレートに入っている間に十分な刺激を受けなかったりすると、子犬はそれを彼らが見過ごされる場所と考え始めるため、それが原因でクレートに入るのを嫌がるようになることがあります。裏庭が完全にフェンスで囲まれていて危険なものがない場合は、室内でクレートに入れるよりも、一日中外にいる方が有益です。



・ 日中、短時間でもクレートに入れている場合は、静かになったときだけ出すようにします。もし、クレートから出そうと近づいたときに、鳴き始めた、興奮して跳ね回ったりしたら、落ち着くまでその場を離れ、もう一度試してみてください。これは、興奮した行動を止めさせるためです。ドアを開ける前に、落ち着いて座って待つことを子犬に教えることを強くお勧めします。

- 子犬が他の場所で眠ってしまったら、子犬をクレートに移し、ドアを閉めます。目が覚めたら、そのまま褒めて出してあげ、クレートで寝てもいいんだということを教えてあげましょう。

小さなお子さんがいる場合は、子犬が寝ているときやクレートで過ごしているときに邪魔をしないようにしましょう。

子犬は1日に何度もトイレをする必要があるため、クレートの中に数時間いる場合は、トイレ休憩が必要になることを覚えておいてください。クレートを使えばすぐにトイレのしつけができるわけではないので、トイレ休憩やご褒美を与えることは必要なプロセスなのです。

- 子犬をクレートで一晩寝かせるトレーニングを初めて行う場合、最初は少しくらいの鳴き声を期待してください。子犬が騒いでも無視しなければなりません。話しかけたり、注意を引いたりすると、悪い行いが報われるだけで、しつけが長引く可能性があります。

子犬と一緒に朝の習慣をつけるとき、朝起きたらすぐにトイレ休憩をさせてあげると、クレートでトイレの失敗が起こるのを防げます。子犬はあなたに会えてとても興奮しているので、騒ぎ始めたら、クレートの扉を開ける前にお座りのコマンドを出し、静かに座って待っているようにします。その後、トイレに連れ出します。トイレを済ませたら、抱っこして褒めるなどして、必要なら子犬をクレートに戻し、外に出す準備が整うまで監視します。子犬をクレートに戻した後、子犬が騒いだら、再び外に出す準備ができるまで無視し続けます。

そうすることで一貫した生活習慣を身につけさせ、朝早くから家庭を起し続けるような子犬を防ぐことができるのです。

- クレートを罰エリアとして使用しないでください。

子犬がクレートを汚してしまっても、罰を与えないでください。その場所をきれいにし、いつ汚したのか、なぜ汚したのか、考えられる理由を書き留めておくだけでよいのです。

次回は、このようなことがないように、トイレ休憩をもっと頻繁にとったり、給餌時間を調整したりする必要があります。



KIWI PRIDE GUIDE FOR



TOILET TRAINING

トイレトレーニング

トイレのしつけは、一貫性を持って子犬にしつけることができれば、簡単に行うことができます。トイレは、起床後、就寝前、遊びの後、食後、クレートに入れたりした後、すぐに連れて行くようにしましょう。その都度、確実にトイレに誘導することができます。家の中で起こるトイレの失敗の多くを回避することができます。

いつもリードにつないで

- トイレに連れ出すときは、必ずリードでつないでください。子犬は裏庭にあるものにすぐ気が散ってしまうので、裏庭をゲームや探検の場にしようとする子も少なくありません。

- その結果、子犬をトイレに出すと、10～15分後に飼い主は子犬がトイレをする必要がないと思って中に戻し、子犬はほとんどすぐに、トイレの失敗を起こしてしまうのです。子犬をリードでつないで、トイレをさせたい場所まで歩かせ、その場所に入ったら、子犬を迷わせないようにします。

- リードを引っ張られても、反応せずじつとしていてください。

コマンド・ワード

- 「おしっこ」「ビジービジー」「早く」など、トイレに行くたびにコマンド・ワードを使うようにします。子犬をトイレに連れて行くときは、家族全員がこれを使うようにします。そうすれば、子犬はすぐにあなたが何をしようとしているかを理解し、その都度処理が早くなることでしょう。

- 最初の命令の言葉の後は、子犬に話しかけないようにしましょう。トイレをさせようとしているときに話しかければ話しかけるほど、子犬の気が散ってしまい、トイレの時間が長くなってしまいます。

褒める

- 子犬を褒めましょう。トイレをしたら、たくさん褒めてあげてください。トレーニング用のおやつを与えます。外でトイレをすることで、良いことをしたと理解できるようにしたいものです。子犬が外でトイレをしたのを見かけたら、そのときも褒めておやつをあげましょう。子犬がトイレを済ませないうちに褒め始めると、子犬の気が散ってしまいます。すでに他の犬を飼っている場合は、その犬が外でトイレをするたびに子犬が外でトイレをしたら、その都度褒めるようにします。子犬のうちは他の犬が褒められているのを見ると、他の犬の行動を簡単に覚えてしまいます。

尿や便の回数

- その日、子犬がトイレに行った回数を考えてみましょう。たとえば、子犬に餌をあげたが、これまでのところおしっこのためだけだった場合は、食べた直後にうんちをする必要があるため、家を歩き回らせたりしないでください。

または、トイレなしで一日中過ごしている状況では、子犬はかなり早く行く必要があることを理解してくださいので、定期的にトイレを勧めるようにしてください。

スペースを制限する

- 子犬を家の中で放し飼いにしないこと。子犬のうちは、「家の中でトイレをしてはいけない」ということを理解できません。彼らの自然な本能は、寝具/食事/遊び場からトイレに移動することです。そのため、ラウンジにおもちゃや布団を置いておくと、部屋の反対側や廊下、寝室などに移動してトイレを済ませ、ラウンジに戻って遊びや睡眠の続きをすることができるので、散らかったおもちゃを近くに置かずに済みます。放し飼いの場所を制限してしまうと、生活圏を汚されるのが嫌でトイレを躊躇するようになります。

トイレのサイン

-あなたはすぐにあなたの子犬のトイレのサインを知るようになるでしょう、子犬は床に鼻をつけ周りの匂いを嗅ぎ始めますが、これはトイレをする場所を探しているということを意味するのでこの課程が見えたら、すぐに外に出してトイレをさせてあげてください。フェロモンを除去しないと、子犬はその場所で自分のにおいを認識し、何度もトイレをするようになるので、すぐにその場所を掃除してください。家庭用洗剤ではフェロモンは除去できません。

トイレシート

-トイレシートは、必要なときに子犬がどこかでおしっこをできるようにするために、一晩中クレートに入れることができる吸収性のシートです。

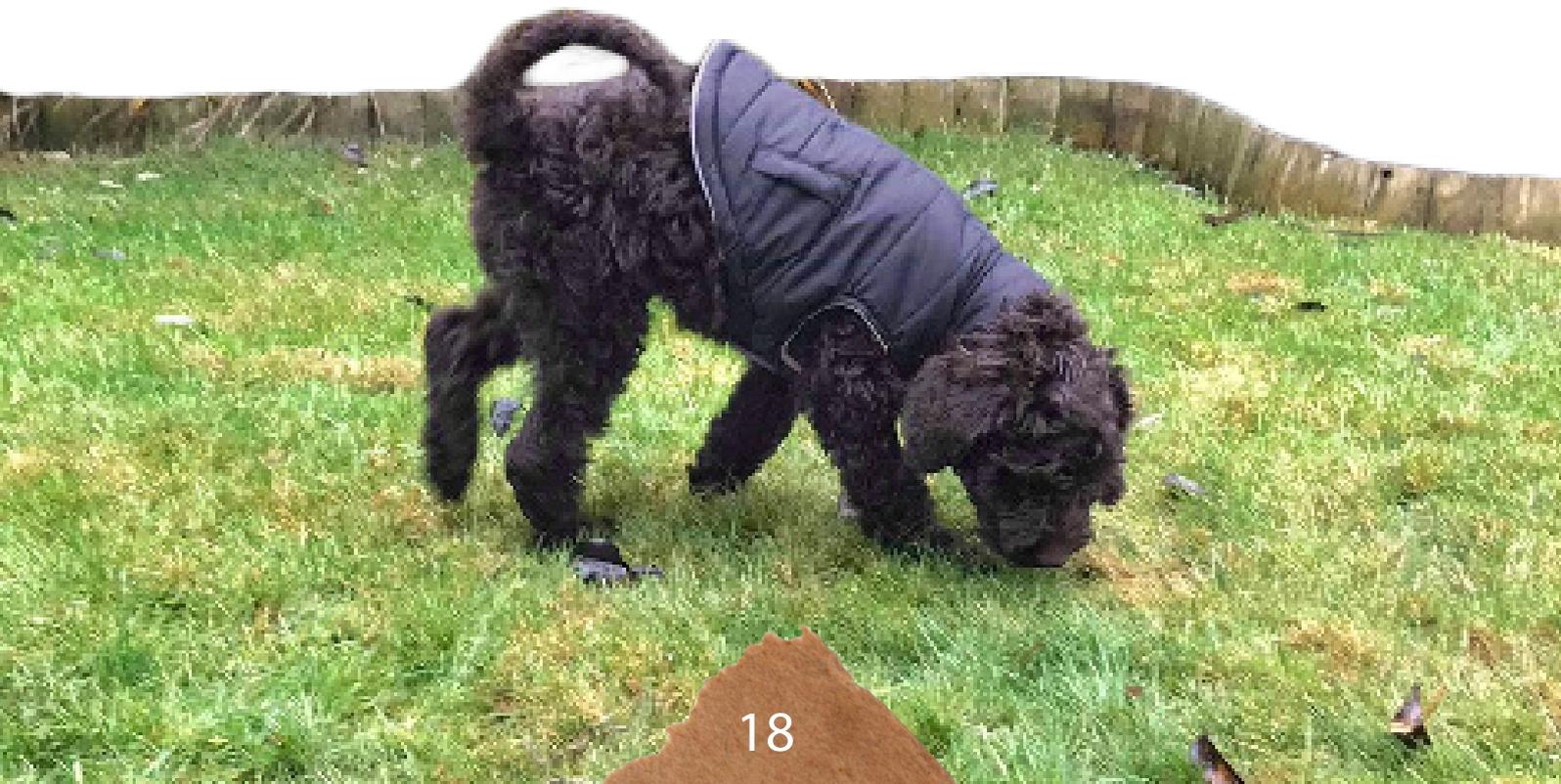
しばしば、「クレートを小さくすれば、尿意を我慢してトイレをしなくなる」「子犬がクレートでトイレをしたら、しつけが逆戻りする」と考える人は少なくありません。これはそうではありません。小さな子犬は尿意を長時間我慢することはできません。

クレートにいる間にトイレの我慢の仕方を覚えますが、最初はトイレをしたくなったら、必死になって何でもトイレをするようになります。もし、夜中に数時間おきに起きてトイレの様子を見るのが嫌なら（寝不足の翌日は飼い主が不機嫌になります！）、クレートの半分に布団を敷いて、もう半分にトイレシートを敷いて一晩過ごすといいでしょう。（一晩だけ行います）トイレシートにはフェロモンが染みており、子犬がベッドから離れ、トイレシートの上でトイレをするように促します。朝には捨てて、新しいトイレシートに取り替えるだけです。

日中、数時間拘束される場合を除き、家の中でトイレシートをするのはお勧めしません。それよりも、1日中、子犬を外に連れ出してトイレをさせる方がずっと効果的です。

（日本では、サークル内にトイレを設置し、そわそわし始めたらトイレまで連れていきます。）

便利なヒント： 家の中にカーペットを敷いていて、子犬がトイレを失敗してしまった場合。トイレシートは吸収性に優れています。カーペットの上に逆さまに置いて、吸収性のある面がカーペットに触れるようにしてカーペットの上に逆さまに置き、押し付けるようにします。トイレシートがカーペットについた尿を吸収してくれるので掃除がしやすくなります。



KIWI PRIDE GUIDE FOR



DOMESTIC

AIRPORT

COLLECTION

空港での受け取り

空港での受け取りについて

子犬のフライト当日は、飛行機の到着に間に合うように空港にいる必要があります。空港によっては、空港内に特定の貨物セクションがあり、子犬はそこに集荷されます。空港に電話または直接出向いて、この点を確認することをお勧めします。

空港職員に「子犬の受け取りを待っている」旨を伝えると、空港内の適切な場所に案内されますので、そこでお待ちください。飛行機から降りるのは、通常、子犬が最後となりますので、乗客や荷物が先に降りてきても気にしないでください。子犬を受け取る際には、免許証などの身分証明書の提示を求められることがありますので、必ずお持ちください。

セキュリティ上の理由から、木箱のドアはケーブルで閉じられるため、スタッフがこれらの紐を切るのを手伝う必要があります。

すべての重要な書類を含む子犬のフォルダは、あなたの名前がはっきりと確認できる状態で木箱の上部に固定されます。このフォルダには、子犬の獣医師手帳、去勢に関する証明書、健康診断書、保険証書などの情報が入っています。

家に帰るまで子犬を木箱に入れておくか、子犬を連れ出して安心できる抱擁をして、ここから運ぶか、安全に家に帰るために木箱に戻すことができます。

子犬はまだ3回のワクチンが完了していないので、まだ地面を歩き回ることはできません。

家の中や裏庭なら安全ですが、通りや海など、他の犬が出入りする場所には行かないようにしましょう。この最終ワクチン接種の日付は、子犬の獣医師手帳に記載されています。このため、空港を出発する際には、子犬を車まで運ぶ必要があります。

車で帰宅するときは、子犬をクレートに入れます。

家に帰ったら、すぐにトイレに連れて行ってください。

私たちは旅行前にあなたの子犬に餌を与えなかったでしょう、これは航空会社の木箱の汚れを防ぐのを助けるためです。

ですから、彼らが落ち着くのを助けるために、彼らを家に帰ったらすぐに少量の食事と水を与えてください。子犬の世話をする際に必要な餌の量や、子犬がお家に慣れるまでの様子を記した「子犬の世話シート」を書類一式に同封します。



KIWI PRIDE GUIDE FOR



NEW PUPPY OWNERS

初めて子犬を飼う方へ

初めて子犬を飼う方へ

子犬は、兄弟や家から離れて新しい環境に身を置くため、落ち着くまで数日かかることがあります。

子犬には暖かく心地よいベッドを与え、清潔な飲み水をたくさん与え、トイレの失敗を考慮して掃除のしやすい場所に設置しましょう。

また、子犬が最も喜ぶのは、小さな巣穴のような密閉された場所(これは単に小さな開口のある小さな家のことで、安全で暖かい場所、たとえば犬小屋やクレートなど)であることを考慮に入れてください。

寒い季節に子犬を暖かく保つために使える製品もたくさん販売されています。

最も使いやすいのは、最長12時間暖かく保つことができる電子レンジ対応のヒートパッドや、ペット用電気毛布で、ペットショップで簡単に購入できます。

新しい子犬の主な考慮事項は、子犬が食べるのをやめたり、十分な栄養を摂取しなかったりした場合に起こり得るいくつかのことがあるので、子犬がよく食べ続けることを確認することです。

低血糖は、小さな子犬にとっては致命的で、主に若い小型犬に見られる非常に危険な症状です。

したがって、血糖値を健康な範囲に保つために、子犬には数時間おきに良質の食事を与えるようにしてください(若い小型犬の場合)。少しでも心配な場合は、お近くの獣医師にご相談ください。

万一、子犬が立ち上がれなかったり、昏睡状態に陥ったりした場合は、普通のハチミツを指にすくって子犬の口に入れ、獣医師に連絡して緊急受診してもらう間に、子犬の血糖値を早く上げることができます。



食事療法

子犬は高品質のスーパープレミアムパピーフードで育っています。この食事だけを与えても十分です。生後12ヶ月までは、良質なパピー用フードを与えることをおすすめします。

子犬の頃から食べていたフードから変更する場合は、新しいフードが高品質で子犬に適しており、健康な骨の成長を促し、健康を維持するものであることを確認してください。

フードを変えるときは、5~6日かけてゆっくりと新しいフードを古いフードに導入してください。そうすることで、新しいフードに切り替える際にお腹を壊すのを防ぐことができます。

新しい環境での最初の2~3日で、子犬がご飯を食べなくなっても、それはごく普通のことです。食事をさせるために、いろいろな工夫をしましょう。

1つは、高品質の子犬用ウェットフードを1缶購入して、ドッグフードに混ぜてあげることです。こうすることで、子犬にとってドッグフードはより魅力的なものになります。

子犬が落ち着いてきたら、これらの余分なものを食事から取り除き、通常の食事に戻すことができます。子犬が食べないこと、子犬の様子がおかしいことに少しでも不安を感じたら、かかりつけの獣医師に相談してください。幼い子犬は、新しい家に慣れないうちは、淡白な食べ物を好みます。また、お通じが悪くなることもあります。

(子犬が元気がなく、具合が悪そうにしている場合は、獣医師の診断を受けるか、子犬が熱を出していないか獣医に診てもらわなければならない場合があります)。

いかなる段階でも、牛乳や乳製品を与えないでください。



登録

マイクロチップの装着は法律で義務付けられています。私たちはすでに装着を行っています。子犬の登録は、装着した日から30日以内に、当該犬について、環境大臣の登録を受けてください。登録を受けると登録証明書が交付されます。犬が迷子になったり、地震等の災害や事故等で離ればなれになったりしても、ご家族のもとへ戻る確率が高まります。

ワクチン接種

子犬の年齢によって、1回または2回目のワクチン接種が終わり、次のワクチン接種の日付は子犬と一緒に送られてきた証明書に記載されています。

子犬に添付された証明書に記載されているとおり、子犬を散歩に連れて行くには、合計3回のワクチン接種が必要です

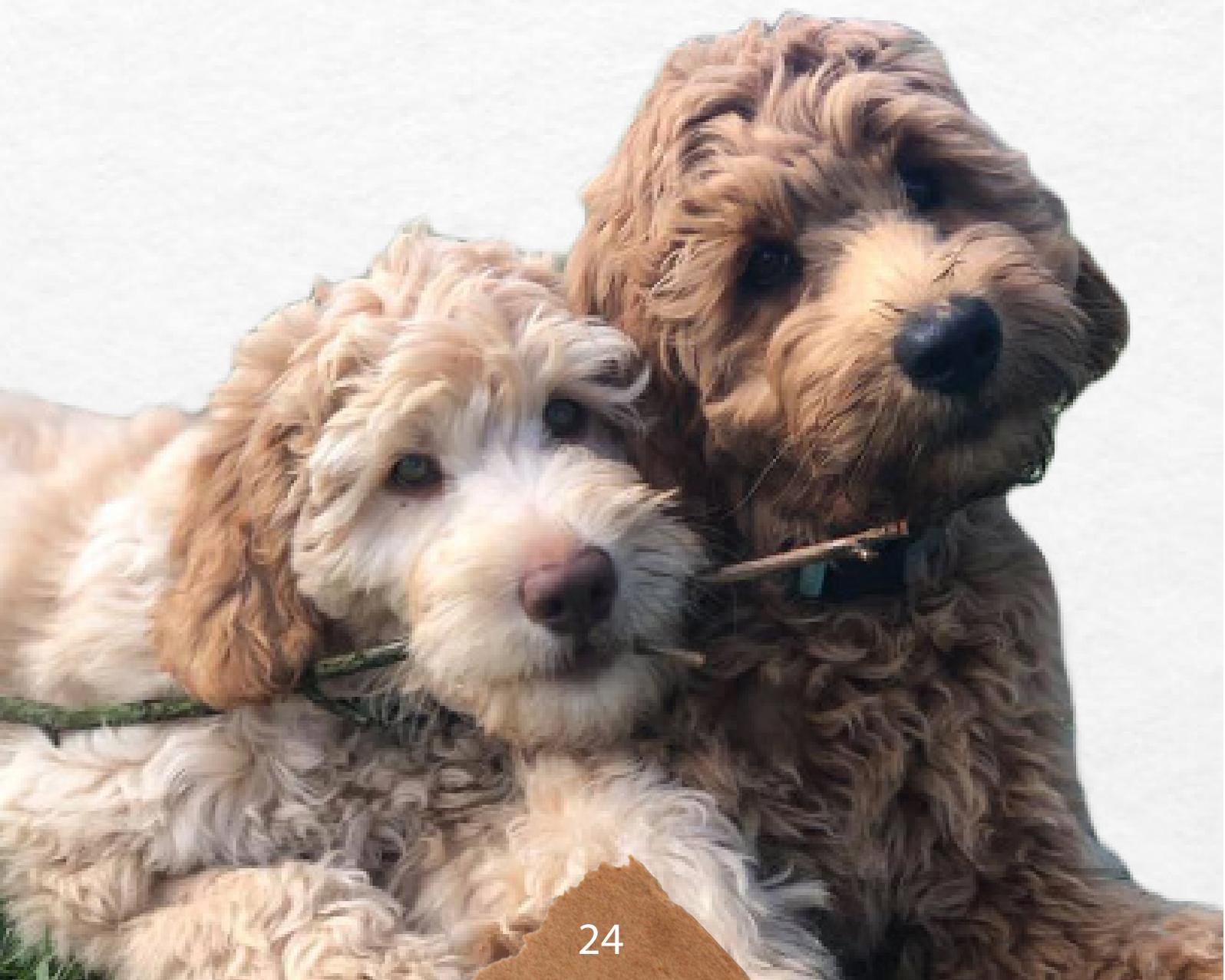
(獣医師の診断により、16週齢で3回接種することが推奨される場合もあります)

最後の3回目のワクチン接種から1週間後に、子犬が他の犬のいるところへも安全に散歩できるようになります。

寄生虫

生後2週間から週2回の間隔で、当社で駆虫を行いました。

治療日や治療内容の記録は、配布されたペットパスポートに記入してください。獣医師が推奨するプログラムを続けてください。



ノミ

子犬はノミの治療を受けており、これも獣医のパスポートに記録されます。獣医が推奨するノミ取りプログラムを続けることをお勧めします。

将来の骨の問題を回避するために

将来、股関節や肘関節に問題が生じるのを防ぐため、子犬の骨が発達して関節などに衝撃を与えられるようになるまで、最初の12か月間はリードをつけて散歩することだけをお勧めします。もちろん、椅子やソファなどから飛び降りない限り、子犬が家庭で自由に遊ぶことは問題ありません。

生後12ヶ月までは高品質の子犬用フードを与え、骨を丈夫に育ててください。どんな犬でも将来的に股関節や肘関節の形成不全にならないとはどの犬でも保証できませんが、生後12ヶ月の間に上記のような対策をしておけば、将来的に関節が悪くなる可能性を最小限に抑えることができます。

被毛のお手入れ

被毛はとても柔らかく、非常に絡まりやすい性質を持っています。

毛玉が出来てしまうと、皮膚の状態が悪くなり、炎症が起きてしまう場合があります。このような皮膚のトラブルの原因となる毛玉を作らないために、こまめに子犬のブラッシングを手早く行ってあげるとよいでしょう。

スリッカーブラシなどを使って、子犬全体に素早くブラシをかけます。

毛を分け、皮膚に近い毛の根本から順番に、被毛のすべての部分を手入れします。

(この処置は、経験を積みれば数分で終わります)。

犬の皮膚や被毛は、頻繁に洗うよりも定期的なグルーミングでよく保たれるので、洗う合間に犬用スプレーを試してみてください。

とても良い香りのスプレーがたくさん販売されていますので、入手しやすい場合は自然素材のものを選び、月に1度程度洗うようにしましょう。



